

## 筑紫女学園大学大学院人間科学研究科 学位論文（修士論文）評価基準

本学大学院人間科学研究科では、専門的知識を深め、研究指導教員の指導のもとで学位論文（修士論文）を作成することを最終的な到達目標としている。

修士論文をまとめるにあたっては、「研究指導Ⅰ」「研究指導Ⅱ」を履修しながら、一貫した研究指導教員のもとで修士論文の作成へ向けた個人指導を受け、研究計画に基づき、研究課題の明確化、論証性、独自性を追究していく。また、これらと並行して、修士論文提出に向けた研究が着実に進むよう、院生各自が研究指導教員と相談しながら、「研究計画の概要」「研究計画書」「人を対象とする研究計画等審査申請書」「中間報告書」「修士論文題目届」「修士論文概要」を提出し、中間発表会で口頭発表を行うことも定めている。

以上のような研究指導を経て提出された修士論文の評価基準は、以下に示す通りである。

### 1、修士論文について

本研究科における修士論文の定義は、研究テーマに関する幅広い先行研究の把握と整理、客観的な問題点の提起と整理、事例、調査、実験データを用いて、一定以上の新たな研究成果を論述したものとする。

### 2、「特定の課題についての研究の成果」について

本研究科では、「特定の課題についての研究の成果」をもって修士論文に代えることができることとする。

#### (1) 「特定の課題についての研究の成果」を修士論文に代えて提出する場合の認定基準

- ①本研究科の目的及び提出者のフィールドに適した研究テーマであるか。
- ②実践的・実務的な課題解決、将来的発展を志向した研究であるか。

#### (2) 「特定の課題についての研究の成果」形式

- ①事例研究  
公開資料に基づく事例や自己の経験した事例の分析を論文の形にまとめたもの。
- ②調査研究  
公開統計資料分析や自身で行うアンケート・インタビュー調査の分析を論文の形にまとめたもの。
- ③問題解決（実践検証）型研究  
特定領域の実践・実務現場の特定の問題について、その解決を図るための過程や成果について論文の形にまとめたもの。  
※書式、分量等は、修士論文と同様とする。

#### (3) 「特定の課題についての研究の成果」を修士論文に代えて提出する場合の手続き

「特定の課題についての研究の成果」を修士論文に代えて提出する場合には、あらかじめ研究指導教員と相談のうえ、修了前年度提出の「中間報告書」に明記し、研究科委員会の承認を得ることで学位論文に代えることができる。その後、論文の形式を変更する場合は、「修士論文題目届」及び「修士論文題目変更届」に明記し、研究科委員会の承認を得ることで変更することができる。それ以降の変更は、認められない。

### 3、審査の体制

提出された各修士論文に、主査1名、副査2名の計3名による修士論文審査委員会を設置し、論文審査（査読）及び最終試験（口頭試問）による修士論文等審査を以下の要領にて行う。

### 4、審査の方法と基準

#### （1）論文審査

修士論文審査委員会にて査読し、以下の基準に準じて審査を行う。

- ① 問題設定、テーマは明確か。事例研究や調査研究の意図は明確か。
- ② 先行研究を十分に整理しているか。課題、問題把握は適切か。
- ③ 章立てを含めた論述の流れは適切か。
- ④ 研究方法や資料の選択など、論証方法は適切か。文、図、表、引用など論証資料は適切に用いられているか。調査、分析方法は適切か。
- ⑤ オリジナリティーが存在するか。研究、調査から得られた新知見や実証性はあるか。

ただし、「特定の課題についての研究の成果」の場合、②について先行研究を十分に整理していることよりも、実践・実務的な課題・問題設定の適切さを重視する。また、④について論証方法の客観性よりも課題解決への有効性を評価することとする。

#### （2）最終試験

2月中旬に修士論文審査委員会にて口頭試問を行い、下記の基準において審査を行う。口頭試問では、まず受験者が論文等全体の概要説明を20分程度行い、その後、以下の点を中心に質疑を行う。受験者は、修士論文等（本人控）及び必要な資料を持参すること。

- ① 問題設定、テーマは明確か。事例研究や調査研究の意図は明確か。
- ② これまでの研究に、どのような新たな知見を加えることができたか。実証性はあるか。
- ③ 章立てを含めた論述の流れは適切か。
- ④ 研究方法や資料の選択など、論証方法は適切か。文、図、表、引用など論証資料は適切に用いられているか。調査、分析方法は適切か。
- ⑤ 研究成果の今後の発展の見通しはどうか。
- ⑥ 質問に対して的確に答えているか。

### 5、修士論文等審査における評価

修士論文等審査の評価は、以下の4段階で行う。

- A：優れた研究が行われ、研究のさらなる発展が期待できる。
- B：おおむね良好な研究がなされたと認められる。
- C：不十分な点もあるが、一定程度の研究がなされたと認められる。
- D：適切な研究成果が得られたとは認められない。

※A～C：合格　D：不合格